
この狂える女神のもとに

青

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この狂える女神のもとに

【Nコード】

N8696I

【作者名】

青

【あらすじ】

まだ、神の戦いの名残をとどめる名のない世界。
女神は眠りの中で世界を流転し支配する。

主人公薬師セスは冒険者をしながら、探し物の旅をしていた。
探し物はまだ見つからず、時は過ぎていくばかり。
はたして、彼の望みは叶うのでしょうか？

はじまり（前書き）

少々の同性愛的表現＋冒険物語のため、多少の暴力的表現があります。以上のことをご了承ください。

はじまり

1 はじまり

ケモノの白い身体には、幾重にも絡みついた鎖。

その金の眼は渴望と狂気と、欠片の絶望がきらめく。

ケモノを急き立てるは女神の呪い。

目の前に立つは、ひとの子。

その灰青の眼には絶望と悲嘆、欠片の希望がきらめく。

長くケモノを押さえつけていた意志は、もはやなんの力も残っていないかった。

コレを喰えば、コノ飢え、コノ渇き、満たされるか？

打ち込まれた楔を引きちぎると、その勢いでもって獲物に牙をむける。

広がるは芳醇。

軽い酩酊がケモノを支配する。

幸福が血潮をめぐり、ぶるりと身震いした。

血とは、これほどまでに甘美であつたらうか？

肉とは、これほどまでに腹を満たすものであつたらうか？

遠く、ケモノの血肉に残る記憶がかすかによぎる。

地に落ちた白鷹の眼。

あれは灰青ではなかっただろうか？

戸惑いは、されど瞬く間に、血の香りに流される。

再び飢えに支配されたケモノは、獲物に爪を立てしるしを刻み込む。誰にも奪われぬように、誰にも食われぬように、と。

「——しるしは刻まれた。」

ぼくとおまえは縁を結んだ。

この鎖をもって、おまえの身体は^{からだ}しばられ、

この楔をもって、おまえの魂はこの地に封じられる。」

ひとの子とケモノの視線が重なった。

ケモノは驚いて飛びのこうとしたが、四肢に絡まる鎖は一切の動きを許さなかった。

絶望していた眼は、^{まなこ}強い意志をもって、ケモノをみていた。

「……らず、かならず、ぼくはもどってくる。」

狂える呪いから、あなたの未来を取り戻すためにっ！」

掲げ持った楔がいつそう輝きを放つと、ひとの子はしるしへ、胸に突き立てた。

あたりを閃光が、絶叫が天を裂く。

誓いをもって成された封印は、ひとの子をも縛る。

マガツ森の奥深く、ケモノはひとときの夢をみる。

再び目覚める日まで。

はじまり（後書き）

誤字脱字、ご一報いただければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8696i/>

この狂える女神のもとに

2010年10月28日05時13分発行